平塚の石仏めぐり

21. 下吉沢編

下吉沢 弁天社 青面金剛庚申塔

下吉沢の石仏

下吉沢は、平塚市西部の大磯丘陵に立地し、東部は不動川が南北に流れる沖積低地で、畑作地帯となっており、南部は大磯町と境を接しています。『新編相模國風土記稿』による天保年間における旧下吉沢村の戸数は 50 戸でした。

旧下吉沢村の各集落はおおむね県道相模原大磯線沿いに形成され、宮下、大門、大下に三分されており、現在では下宮下、新宮下、大門上、大門中、大門下、中下、大下の 7 区に分けられています。

このマップでは下吉沢に点在する石造物を紹介します。信仰に起因する石造物は 69 基で、そのうち 55%の 38 基が松岩寺、弁天社および山王社にあります。そのほか路傍には馬頭観音や道祖神、地神塔など、また、現在は廃寺となっている寺院の跡地にも石仏、石塔がみられます。

種別で見ると、地蔵、馬頭観音および奉納塔が各 7 基、次いで数が多いのは道祖神で 6 基、大日如来と灯篭が各 4 基の順となっています。

馬頭観音が路傍に数多く見られるのは、かつてこの地で多くの馬が農耕、運搬用に飼育されていたためであり、亡くなった愛馬の供養として建てられたのでしょう。また、大日如来は松岩寺バス停近くの大日如来像を始め 4 基造立されており、廃寺となった密教系の寺院である大光寺の影響が大きかったものと考えられます。

石仏豆知識 16. 大日如来

釈迦を開祖とする仏教の信仰対象である仏の姿を表現した像には、役割や特徴の違いにより、如来（大日如来、阿弥陀如来、釈迦如来等）、菩薩（地蔵菩薩、観音菩薩等）、明王（不動明王等）、天部（弁財天、大黒天等）の 4 種類に分けられています。

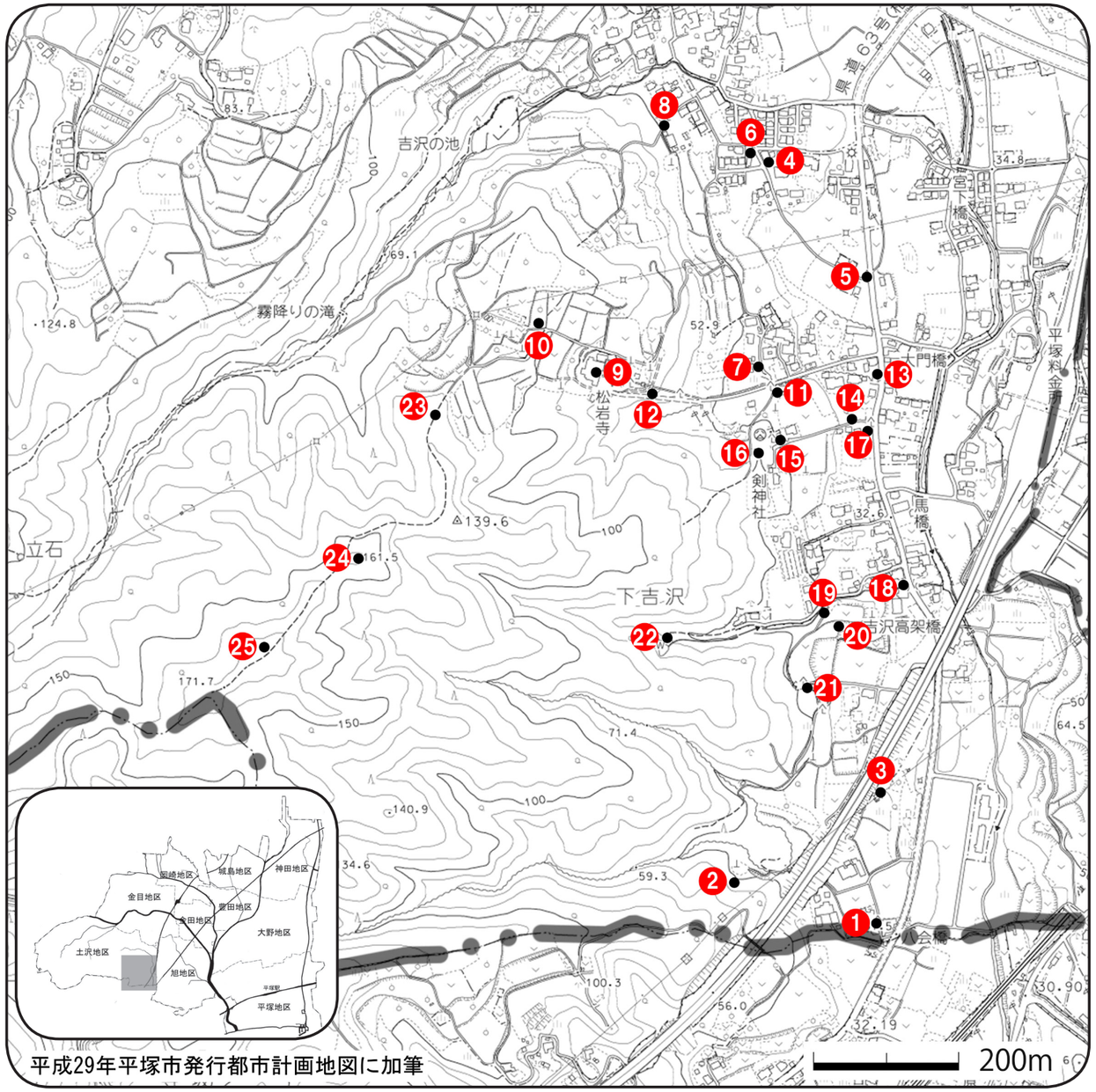
その中で、如来は仏の最高位に位置し、また、出家後の釈迦の姿をモデルとしているため、その姿は一般的には納衣（のうえ）をまとうだけで、装飾品は身につけていませんが、大日如来だけは別格で豪華な装飾品や宝冠をつけています。また、螺髪（らほつ）ではなく、髪を結い上げています。

大日とは、「大いなる日輪」という意味があり、太陽を司る盧舎那仏（るしゃなぶつ）如来がさらに進化した仏です。密教（真言宗・天台宗）では大日如来は宇宙の真理を現わし、宇宙そのものを指します。また、すべての命あるものは大日如来から生まれたとされ、釈迦如来・阿弥陀如来・薬師如来をはじめとする他の仏もすべて、大日如来の化身と考えられています。

大日如来には悟りを得る為に必要な智慧を象徴する「金剛界大日如来」と、無限の慈悲の広がりを象徴する「胎蔵界大日如来」という 2 つの異なる捉え方があります。金剛界、胎蔵界の姿でそれぞれ印相（悟りの内容や意志を示す手指のかたち）が異なります。金剛界の大日如来は、左手の人差し指を立て、その人差指を右手で包みこむ「智拳印（ちけんいん）」の印相を、一方、胎蔵界の大日如来は、腹の前で両手の全指を伸ばして組み合わせる「法界定印（ほっかいじょういん）」の形をとってます。

市内の大日如来石造物は、金剛界 23 基、胎蔵界 8 基、その他文字塔 3 基と合計 34 基ありますが、密教系の寺院に 14 基と多くみられます。

ここ吉沢地区には、上吉沢で山田屋敷の宗海寺跡と寺前の妙覚寺に各 1 基、下吉沢では、大門下の路傍に道標を兼ねた大日如来が 2 基、また、山王社には廻国を兼ねた大日如来など 2 基併せて 4 基存在します。



下吉沢の石仏所在地と主な石仏

番号	名　称	住　所	主　な　石　仏
1	下吉沢路傍	下吉沢 15	道祖神
2	妙現寺跡	下吉沢 28	題目塔
3	下吉沢路傍	下吉沢 79	馬頭観音
4	下吉沢路傍	下吉沢 461	馬頭観音
5	下吉沢路傍	下吉沢 484	大日如来・道標
6	下吉沢路傍	下吉沢 512	道祖神
7	下吉沢路傍	下吉沢 528	馬頭観音
8	下吉沢路傍	下吉沢 548	馬頭観音
9	松岩寺	下吉沢 612	地蔵、馬頭観音、結界石他
10	松岩寺墓地	下吉沢 621	記念碑
11	下吉沢路傍	下吉沢 646	道祖神
12	松岩寺参道階段下	下吉沢 651	地蔵、寺号塔
13	下吉沢路傍	下吉沢 671 南	馬頭観音
14	下吉沢藪中	下吉沢 703	道祖神
15	自治会館	下吉沢 711	地蔵
16	八剣神社	下吉沢 712	奉納塔
17	八剣神社入口	下吉沢 722	地神塔、庚申塔
18	弁天社	下吉沢 783	道祖神、庚申塔、観音他
19	下吉沢路傍	下吉沢 810	神体石
20	下吉沢畑中	下吉沢 811	神体石
21	旧大光寺脇路傍	下吉沢 813	地蔵
22	下吉沢の池	下吉沢 848	水神
23	下吉沢路傍	下吉沢 882	馬頭観音
24	山王社	下吉沢 954	大日如来、廻国塔、山王他
25	山の神	下吉沢 1136	山の神

※ 当ガイドマップに記載されている石仏の基数は令和 3 年集計時点のものです。

石仏めぐりを行う場合の心掛け

石仏は、古来より多くの人々がさまざまな願いをこめて手を合わせ祈ってきたものです。今でも信仰の対象とされているものも数多くありますので、見学に当たっては、敬いの心を持って接しましょう。

また、お寺や神社など石仏の管理者がいらっしゃる場合は、石仏を見学する旨一声かけてから見学しましょう。

平塚の石仏めぐり（21 . 下吉沢編）
発行日：令和 5 年 11 月
編　集：石仏を調べる会
発　行：平塚市博物館
住　所：神奈川県平塚市浅間町 12-41
電　話：0463-33-5111

妙現寺跡の石仏　（地図番号②）

日蓮宗の寺院で、慶長年間の初め (1600 年前後) に創建されました。関東大震災で倒壊し、昭和 4 年 (1929) に南金目に移転再建しました。

題目塔（明治 14 年）

題目塔　日蓮宗の寺院に見られる石仏で、7 文字の題目「南無妙法蓮華経」が刻まれています。日蓮聖人独特の書体を写したもので「髭題目」と呼ばれています。筆の先まで躍動感と力強さがあふれています。

妙現寺跡には 2 基の題目塔があります。写真は明治 14 年 (1881) 日蓮聖人の六百年遠忌の建立で、「南無妙法蓮華経日蓮大菩薩」と彫られています。もう 1 基は昭和 57 年 (1982) の七百年遠忌に建立されました。

記念碑（平成 18 年）

記念碑　むかって右手の小高い丘には、「下吉沢妙現寺　七面山」と刻まれた石碑があります。平成 18 年 (2006) の建立です。

七面山は山梨県南巨摩郡（みなみこまぐん）にある標高 1,989m の霊山です。山頂近くには法華経を守護する七面大明神を祀る七面山敬慎院（けいしんいん）があり、日蓮宗の聖地とされています。

下吉沢路傍の道標を兼ねた大日如来　（地図番号⑤）

県道 63 号線を生沢から伊勢原に向かう途中、松岩寺バス停の近くに金目方面に分岐する三差路があります。この分岐点に智拳印（ちけんいん）を結ぶ像高 70cm の大日如来像と、「大日如来」と大きく陰刻された高さ 114cm の自然石の文字塔が建っています。

左の大日如来像は平成 6 年 (1994) に再建されたもので、かつては蓮華座と台石のみでした。台石正面には「従是左かない□」とあります。また右の文字塔はいつ建てられたのかは不明ですが、「右　いせ原道　左　加那飛道」とあり、ともに生沢方面から来る旅人の道標（みちしるべ）として役立っていました。

下吉沢には、この地と山王社にある大日如来や、かつて不動堂にあった不動明王、カンマン川（現、不動川）など密教系寺院に由来する像や名称が多く、廃寺となった古義真言宗の大光寺の影響が大きかったものと思われます。

大日如来・道標（左 平成 6 年、右 年代不詳）

松岩寺の石仏　（地図番号⑨）

曹洞宗の寺院で、万年山松岩寺と称します。開基は、当時吉沢を領有していた布施三河守康貞で、文亀 2 年 (1502) と伝えられています。檀家は、下吉沢の旧家が多いですが、隣接する大磯町の寺坂と生沢にも少なくありません。

奉納塔（元文 4 年）

奉納塔　2 m を越す立派な奉納塔です。北条氏の家臣布施三河守康貞の供養のため、元文 4 年 (1739) に子孫の布施種年が建立したものです。『新編相模國風土記稿』にも康貞の墓として墓誌銘が全文載せられています。

銘文には、「永禄之役戦死」とあり、右面には「永禄七甲子秋七月二十有四日」とあります。永禄 7 年 (1564) 1 月には、里見氏との間で国府台（こうのだい）の役がありました。里見氏との一連の合戦での戦死と考えられます。

結界石（文化 3 年）

結界石　塔正面に大きく「不許葷酒入山門」と彫られています。「葷酒（くんしゅ）、山門に入るを許さず」と読みます。葷酒とは、ニラやニンニクなど匂いの強い食べ物や、酒のことです。

曹洞宗の寺院の山門によくある石造物です。匂いの強い食べ物や酒を持ちこんだり、口にした者が山門内に入ることを禁じています。寺院は修行の場です。修行の妨げになるようなものを寺院内に持ち込むことを許さないことを意味しています。

馬頭観音（明和 6 年）

馬頭観音　馬頭観音は三面八臂（はっぴ）で宝冠（ほうかん）に馬頭をいただき、忿怒（ふんぬ）の相をした観音菩薩です。六観音や七観音の一つとしても祀られています。江戸時代には馬の守護神として信仰されるようになり、飼い馬の墓碑や供養塔として、一面二臂の柔和な観音像が建立されるようになりました。

銘文には「如是畜生發菩提心」とあります。施主名はありませんが、飼い主が馬の供養のため建立したものと考えられます。

水神（昭和 34 年）

水　神　不老水と呼ばれる湧き水のほとりにあります。松岩寺を開山した如幻禅師（にょげんぜんじ）が、この地に水が乏しいことを憂いて竜神に祈ったところ、この湧き水を得たと伝えられています。旱魃（かんばつ）のときにも涸れることなく 500 年にわたり湧き続けていることから不老水と名付けられました。

この碑は下吉沢大門水道組合により昭和 34 年 (1959) に建てられました。当地にはもう 1 基、下吉沢の池に昭和 21 年 (1946) 建立の水神があります。

下吉沢 646 路傍の道祖神　（地図番号⑪）

県道から松岩寺に向かう参道の途中に、2 基の五輪塔に挟まれるようにして立つ 40cmほどの可憐な顔立ちの双体の神像があります。

明治時代に、子どもが流行り病で育たなかったので道祖神を祀るようになったといいます。現在でも、「奉納道祖神　下吉澤大門谷戸　大正七年一月十四日」の幟を二本立て、その脇でダンゴヤキが行われています。

双体道祖神
（中央 明治 41 年、右 年代不詳）

八剣神社入口路傍の石仏　（地図番号⑰）

地神塔　八剣神社の入口路傍に、自然石に「地神社」と刻まれ、台石に「講中」とある弘化 3 年 (1846) に建てられた地神塔があります。

地神講で祀る地神は作神（農耕神）の性格を持ち、春と秋の社日（春秋のお彼岸の中日に最も近い戊（つちのえ）の日）に祀られました。春は五穀豊穣を祈願し、秋は収穫を感謝し、社日の日には講が行われていたといいます。

庚申塔　吉沢地区には、現在 8 基の庚申塔がありますが、そのうち下吉沢には 3 基が存在します。弁天社、山王社とここ八剣神社入口の庚申塔で、そのほとんどが江戸時代に造立されたものと思われます。像高は 95cmの板碑型で、三猿もしっかり像容が残っており、左から不言・不聞・不見と並んでいます。

左 地神塔（弘化 3 年）、右 庚申塔（年代不詳）

旧大光寺脇路傍の石仏　（地図番号⑳）

県道相模原大磯線と小田原厚木道路が交差するすぐ下の脇を入った所の細い道（昔の参道か？）を登ると、周囲に篠竹がはびこっていますが 1m50cm ほどの一体の舟形の地蔵立像が佇んでいます。柔和なお顔でかなりしっかりした彫りを残しており、左面に「奉讀誦法華一千部伸供養之儀・・・」と刻まれています。

地蔵の右手に平坦な畑があり、明治時代に廃寺になった大光寺の境内であったかと思われます。

地蔵（年代不詳）

弁天社の石仏群　（地図番号⑱）

弁天社は『新編相模國風土記稿』にも大光寺持ちと記されている社で、県道 63 号線路傍のこの地にありましたが、平成 7 年 (1995) 新たに整理され、弁天石祠を中心に数基の石仏が集められました。

道祖神　総高 87cm の自然石に「道祖神」と彫られた、大下と中下の共同で祀る道祖神です。いつ建てられたのかは不明ですが、周りに空風輪や火輪などの五輪塔の残欠を集め、塔状に建てられています。

毎年 1 月 14 日前の日曜日に、小田原厚木道路の東側でどんど焼きを行っています。

庚申塔　道祖神の斜め右後ろに、安永 4 年 (1775) 造立の笠付型庚申塔があります。

六臂の青面金剛像の顔は風化していてよく分かりませんが中央二手で合掌し、上部二手で日月を支え、下部二手で弓矢を持っています。像の下には三猿が彫られており、中央の猿は正面を向き、左右の猿は身体を中央の猿に向け、顔のみ正面を向いています。市内で三猿が彫られた庚申塔は 88 基ありますが、ほとんどの猿は正面を向いており、いずれかの猿が横を向いている像容は、ここを含め 12 基のみです。

聖観音　庚申塔の後ろに、聖観音像が彫られた延宝 6 年 (1678) 造立と考えられる舟形の石碑があります。

碑正面には「念佛講　十一人」、「[　　] 六天戊（つちのえ）［午（うま）］八月□日□」と彫られており、念仏講中の人々が建てたことが分かります。紀年銘の年号が読めませんが、60 年毎にめぐってくる十干十二支の戊午（つちのえうま）と六天から延宝と推定しました。

左より　社号塔（平成 7 年）、道祖神（年代不詳）、
庚申塔（安永 4 年）、後ろ 観音（延宝 6 年）他

山王社の石仏　（地図番号㉔）

松岩寺の裏山に下吉沢展望所があり、さらに登っていくと左手に「山王山」と呼ばれる小高い頂がありかつて山王社があった所です。

現在は山王石祠を中心に数体の石仏が並んでいるだけですが、その中に宝永 8 年 (1711) に造立された総高 90cm の智拳印（ちけんいん）を結ぶ大日如来像があります。正面には「奉造立大日尊六十六部札塚供養佛」とあります。

大日如来（宝永 8 年）